



利根中央病院だより

第62号
2022年 新年号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 病院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

新年のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。皆様とともに、新しい年を迎えることができましたことをお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、新たな変異株や第6波襲来等、まだまだ気の休まる状況ではありません。病院では昨年9月より感染者の受入れを再開し、発熱外来につきましても継続して運用しております。

地域の皆様・医師会の皆様・行政の皆様と協力しながら

病院長 ^{せきはら まさお} 関原 正夫



ら、感染対策に最大限の配慮を行いつつ日常診療を邁進し地域の健康を守ることが当院の使命です。

今年は寅年です。虎は、強い力と俊敏さを合わせ持ち警戒心が強い動物です。力強くスピード感を持って進みながらも、状況判断を的確に行っていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

寅年の年男・年女からごあいさつ

名誉院長 産婦人科 医師 ^{いとが しゅんいち} 糸賀 俊一

新年あけましておめでとうございます。コロナ感染が拡大してもう2年が経過しましたが、一向に収まる気配がないまま3年目に突入しました。私は寅年生まれ、寅年でも36年おきの五黄の寅生まれで今年72歳になります。幸い健康に恵まれこの年まで第1線で仕事を続けられることに、多くの先生方や職場の方々に感謝しているこの頃です。今年も利根、沼田地域で分娩が継続できるように皆さんを支える気持ちで頑張るつもりです。よろしくお願いいたします。



総合診療科 医師 ^{うしき もえ} 宇敷 萌

新しい1年がよい1年になりますように…。日々是好日。1日1日をよい日にできるよう、心掛けていきたいです。寅さんのように笑顔を忘れずに、体調崩さずに過ごしていきたいです。よろしくお願いいたします。



外来 看護師 ^{かたやま めぐみ} 片山 恵

明けましておめでとうございます。「あまり背伸びをせず、できることを確実に」と思い、これまででしたが、これからも少しでも成長できるように努力したいです。また、先に敬い、先に感謝することを忘れることなく、1日1日を大切にしていきたいです。



リハビリテーション室 理学療法士 ^{ほそや けんしん} 細谷 健真

今年入職しました理学療法士の細谷健真です。入職してからもうすぐで1年たちますが、まだ仕事は不慣れなことが多く、日々多くのことを学ばせていただいています。これからも向上心を忘れず、患者様へより良い医療を提供できるように努力していきます。



眼科の紹介

眼科医師は現在私のみで診療を行っています。2008年に群馬大学眼科に入局し2013年に当院に赴任しました。平日午前外来、午後は水曜日に手術、他の曜日はレーザーや注射などの処置を行っています。現在土曜日は休診となっております。レーザーを除く手術は年間400件ペースとなっております。9割以上が白内障手術となっております。近年白内障手術は低侵襲化が進んでおり日帰りで行うのが主流ですが、当院の特徴として通院が困難な方や術後の不安がある方に1泊入院も可能となっております。認知症などで全身麻酔が必要なケースや眼以外の持病のある場合には他科の先生方にも御協力をいただき、安全な手術を心掛けています。

眼科科長 たかはし
高橋 ひろし
宙



また、4人の視能訓練士が在籍し小児の斜視や弱視例に対する訓練や高度視覚障害の方へのロービジョンケアを行っています。また地域の3歳児健診にも携わり弱視への早期介入を行っています。高齢化に伴い緑内障や加齢黄斑変性といった難治疾患も増加しています。当院では点眼や注射による治療を行います。手術が必要なケースは群馬大学病院などへ紹介しています。

眼科医不足の影響によりご不便をお掛けすることもあるかと存じますが、今後も質の高い医療が提供できるよう努めてまいります。



眼科外来スタッフ

緩和ケアチームについて

緩和ケアチームリーダー ひが けん
総合診療科副科長 比嘉 研



緩和ケアチームとは、患者さん身体的な痛みに限らず、気持ちの辛さも含めた「つらさ」を和らげるために、専門的な知識・技術を用いて患者さんやご家族へのケアを行うチームです。当院の緩和ケアチームは、医師・看護師・薬剤師・ケアワーカーで構成されています。現時点ではがん患者さんが対象で、入院・通院・訪問診療患者さんでがんと診断された方に対してチームメンバーが「緩和ケア・スクリーニング検査」を行います。点数が高値となった方に対して、緩和ケアチームで介入をしています。

週に1回緩和ケアチーム回診を行っています。介入対象となった患者さんが、今困っていることを事前に伺い、その訴えをもとにチームでカンファレンスを行い、症状・苦痛の緩和をするための方針を検討し、医師・看護師・薬剤師・相談員・リハビリテーションスタッフなど医療スタッフへの提案・支援を行っています。

「痛い」「吐き気が辛い」「口内炎で食

べられない」などの訴えに対して、薬剤の追加や変更、食形態の調整などを提案すること、コミュニケーションや心理的サポートが必要な方へのスピリチュアルケア、患者さんの療養環境において困っていることを伺い、患者さんやご家族の希望する療養方法を整備・調整・支援なども行うことで、少しでも病気ではないときと変わらない入院・療養生活を送れるように、今後もサポートしていきたいと思います。



緩和ケアチーム

メンタルヘルスケア講演会・似顔絵セラピー

～コロナ禍で奮闘する職員の癒しを求めて～ 病院事務局 事務次長 **井本 光洋** いもと みつひろ

当院ではコロナ患者対応に日々追われる職員の心のケアを目的として、外部より2名の講師をお招きし、12月3日（金）にメンタルヘルスケア講演会と似顔絵セラピーを実施しました。

講師は当院総合診療科長の鈴木医師の人脈で2名の方にお越しいただきました。

1人はアメリカの病院でチャプレン（病院聖職者）として活動されていた関野和寛氏、もう1人は似顔絵セラピストとして医療施設・介護施設を中心に似顔絵を通して「笑い」を提供する活動を行う村岡ケンイチ氏です。

チャプレン関野氏はミネアポリスの病院で「チャプレン（病院聖職者）」として勤務されてきた経験をお話くださいました。アメリカでは日本と違い国民皆保険制度が無いと、時として医療費の問題で人工呼吸器を外す場面に遭遇することがあります。「呼吸器を外すそうです。コロナ病棟に行ってください」緊急の呼び出しを受け、詰め襟の牧師服の上から感染防止用のガウンをま

とい、フェースマスクを装着し、手袋をはめゴーグルを着け病室に向かいます。ウイルス付着の可能性があるので聖書は持っていきません。コロナの関係で家族でも患者の看取りに立ち会えないため、家族の方に「あなた方の代わりに大切なお家族の最期を見届けます」と約束してから病室に向かいます。講演の締めくくりには、お亡くなりになる方は言葉が発することはできませんが耳は聞こえているので、看取りに立ち会った際の「死にゆく人と分かち合いたい6つの言葉」というアドバイスをいただきました。

似顔絵セラピストの村岡氏は似顔絵を希望する職員9名を1人ずつ順番で呼び、時間をかけて似顔絵を描いてくださいました。普通の似顔絵と違うところはモデルとなる方と会話をしながら人生の情報を聞き出すところにあります。会話の中からその方が大切にしていることや興味があること、一番輝いていた頃などを聞き出しながら、水彩画に盛り込んで仕上げてくれ、完成した似顔絵を見た職員は全員が笑顔になりました。

これからもしばらくコロナと対峙していく日々が続きますが、職員のメンタルケアを行いつつ、日々の業務に励んでいきたいと考えております。チャプレン関野氏の講演では涙を流しながら聞き入る職員もいました。似顔絵セラピーでは似顔絵を抱えながらみんな笑顔でした。毎日が緊張の連続ですが、ほっと一息つける有意義な講演会となりました。

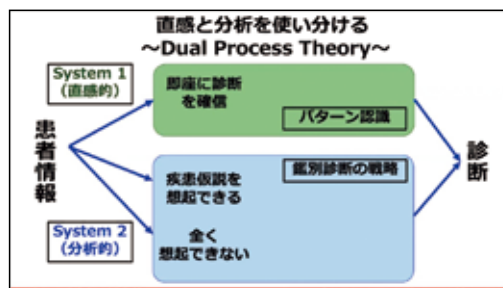


関野和寛氏 村岡ケンイチ氏 鈴木医師

2021年度 Web闘魂祭り開催 11/6

今回は、臨床推論と診断エラーをテーマに、鏞野紀好先生の講演では直観と分析を使い分ける考え方や、鑑別と合わない点を見つける重要性について学びました。また、徳田安春先生の講演では診断リスクが高い症例を6つ提示していただき、診断エラーを防ぐポイントについてグループに分かれ議論しました。参加者からは、「ディスカッションを行うことで自分だけでは気付けない側面か

らの意見を聞くことができ、勉強になった」などの感想をいただきました。



救急外来での診断紛争（外傷以外）
コモンな病気の非典型ケースに注意！

頻度順	疾患
1	絞扼性腸閉塞
2	急性喉頭蓋炎
3	クモ膜下出血
4	急性心筋梗塞
5	急性大動脈解離

見過してはならない疾患の隠れポイント～11～診断エラー集～ より